



遊 道 楽 歩
(雑 感)



郊外に住むわけ



目次

私が郊外に住むわけは、田んぼや里山といった身近に自然を感じることができる場所がよいと思っているからです。

もっとも。都内に住むための資金力もありません。

また、マンション生活は、生まれてこのかた福岡にいた8年間以外に経験したことがなく、高い部屋からの景観に違和感を覚えるようです。

妻も同じようにマンションなどの高い部屋に住むのは、福岡にいた8年だけという経験からか、あまりマンション生活を好まないように思えます。

1990年、千葉県を中心に戸建て住宅を探しましたが、なかなか抽選に当たらず、次点で当選したのが今の我が家です。

今年で30年になりますが、発展するどころか、コンビニやスーパーは撤退し、銀行も今年のはじめに閉鎖されました。

唯一発展したことといえば、JRの駅に快速が停車するようになったことくらいでしょうか。

そのおかげか、まわりの自然は住みはじめたころとおなじように存在しています。

忙しく働きまわっていた時代でさへ休日は、まわりの自然と触れ合うことができ、身近な自然は私自身の精神的支えになってくれました。

人間、育った環境は強く体にしみこんでいるようです。

私は自分のまわりに田んぼや里山がないと不安になります。。

都会生活は、大学生となってはじめて登校しようとした日の朝、新宿駅の階段の光景で一変し、私の学生生活における精神的ダメージを与えてくれました。それでも、就職して3年で福岡へ転勤となり、多少、自然がある生活に戻れたことは幸運だったでしょう。

妻や子供と九州の自然を満喫することができた時代です。

そうそう幸運な生活が長く続くものではありません。

また、転勤。

今度は東京といわれましたが、突然、千葉となり仕事の運はなくなりましたが、生活の基盤を作る自然あふれるエリアは幸運だったといえます。

それでも転職をし、毎日東京まで1時間半通勤する生活には閉口しました。

ソニー子会社における仕事以外は、今思えば、お金のためのしていた仕事だったように感じます。

それも遠い昔の話でしょうか。

やはり、仕事から離れてみると、さらにこの地の自然の大切さがわかります。

海あり山あり、散歩がてら田んぼや里谷の自然を思う存分楽しめます。

発展することなく、このままの風景が楽しめることが、人生の幸せそのものでしょう。

感染症でざわつく世の中ですが、我が家のまわりだけは、いつも日常が続いています。

のんびりとラジオや音楽を聴き、田んぼを眺める日常は最高の贅沢でしょうか。私たち人間だけでなく、マギー（犬）も犬生を楽しめるゆたかな環境のようです。

郊外に住むわけ

著 長野修二

制作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
